

学校運営計画					
学校運営方針		1 入学した生徒が3年間で国公立大学や難関私立大学を含む希望大学へ進学することを可能にし、社会の指導的人材を育成する学校 2 現役での進路希望実現に必要とされる学習の質と量を保証する学校 3 実績ある多数の運動部・文化部等の活動、生徒会諸活動等とおして、徳育・体育にも力を注ぎ、生徒の全人的な発達を目指す学校 4 多様な学習の機会とおして、主体的に進路を選択する能力・態度を育む教育を推進する学校			
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標			
3年間取り組んだハブスクール事業をはじめとする進路目標の実現に向けた学力養成の取組が実を結び、大学進学率70%以上、国公立大学合格者25人以上の目標を達成した。手帳の活用が学習習慣の定着に一役買っているものの、進路目標の実現に向けた学力養成の取組は今後さらに強化していく必要がある。グローバル人材育成事業とおして、小中高の連携を図るとともに、本校の魅力を発信できた。今後は海外修学旅行や文科省の新事業を活用し、さらなる地域活性化への取組を推進していく。	(1) 学力の向上	授業改善で、基礎・基本の定着及び一層の学力向上を目指す。また、学び方、学ぶ姿勢を体得させることをとおして、全体の底上げと上位者・中位層を伸ばす工夫をする。			
	(2) 基本的生活習慣の確立	「時間を守る、礼を正す、場を清める」の3つの基本を徹底し、生徒一人一人が安全で安心して学べる学校づくりを推進する。			
	(3) 進路目標の実現	1 基礎・基本の徹底から応用力、創造性へと主体的「学び」が深化する学習指導の展開 2 国公立大学・難関私立大学への進学を可能にする進路指導の実施			
	(4) 地域に開かれた学校づくり	1 学校の諸活動を積極的に広報し、授業公開等とおして村上高校の魅力を地域に発信する。 2 「首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業」（文科省）を活用し、村上探求活動を推進し、地域交流をつうじて郷土村上を愛する心を育て、地域の課題を解決し、地域活性化に貢献できる人材を育成する。			
重点目標	具体的目標	具体的方策		評価	
学力の向上	授業改善で、基礎・基本の定着及び一層の学力向上を目指す。また、学び方、学ぶ姿勢を体得させることをとおして、全体の底上げと上位者・中位層を伸ばす工夫をする。	・総合的な学習の時間の抜本的な見直しを行い、実効ある計画の策定を図る。	B	B	B
		・組織的に朝学習を展開し、それによった基礎・基本の定着を図る。	A	B	
		・手帳を一層活用した指導を行い、各学年目標である家庭学習時間を確保させる。	B		
		・成績上位層を個別指導で伸ばし、成績中位層に家庭学習の習慣づけを図る。	B	B	
		・成績下位層に対する組織的な学力向上に取り組む。	A	A	
基本的生活習慣の確立	「時間を守る、礼を正す、場を清める」の3つの基本を徹底し、生徒一人一人が安全で安心して学べる学校	・端正で清楚な服装・頭髪を努めるとともに、社会生活における礼儀とマナーを育成する。	A	B	B
		・基本的な生活習慣を身につけさせ、社会規範を遵守する態度を養わせる。	B		
		・情報モラルについての講演会を実施するとともに、保護者への啓発も行う。			
		・交通ルール・マナーを遵守する指導を徹底し、交通安全意識の向上を図る。	B		

	づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の情報交換を絶えず行い、その効果的な指導方法を検討し、全校あげた見守りを実施していく。 ・校内での様子を家庭と随時連絡するとともに、家庭の状況を把握し、生徒の変化を見逃さない校内体制を構築する。 ・外部機関と連携した体制づくりを推進し、教職員研修の一層の充実を図る。 	A	A	A
		<ul style="list-style-type: none"> ・自他共に大切にする態度を育てるための人権教育の一層の充実を図る。 ・教職員の人権教育の実践力を高めるために具体的な指導計画の策定を図る。 ・多くの教職員が研修会に積極的に参加し、その内容を教職員及び生徒に還元する機会を設定する。 	A	A	B
		<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の加入率80%以上を維持し、その活動時間を保障するとともに、継続した活動が行えるよう環境等を整備する。 	B	B	
		<ul style="list-style-type: none"> ・いじめや体罰のない学校づくりを推進するため、定期的アンケートを実施するとともに個別面談を強化して実態把握を努め、基本方針に則って未然防止対策を推進する。 	B	B	
進路目標の実現	1 基礎・基本の徹底から応用力、創造性へと主体的「学び」が深化する学習指導の展開 2 国公立大学・難関私立大学への進学を可能にする進路指導の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・普通科高校としてのキャリア教育のあり方及び進路指導計画の体系化を図り、生徒の進路希望を達成させるための情報提供を随時行い、進路指導室や資料室の利用率向上を目指す。 	A	A	B
		<ul style="list-style-type: none"> ・放課後、長期休業中、平常の補習等を組織的に展開し、生徒の受験学力の向上を図る。 	A	A	
		<ul style="list-style-type: none"> ・進研模試の平均点偏差値 50 以上を目指す。 	B	B	
		<ul style="list-style-type: none"> ・大学等進学率 70%以上を達成する。 	B		
		<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学の合格者数 30 人以上を目指す。 	B		
		<ul style="list-style-type: none"> ・センター試験出願者数に対する国公立型(950点満点)の受験者数を 50%以上となるよう指導する。 	B	B	
		<ul style="list-style-type: none"> ・各人の進路希望達成に向け、進路指導部を中心とした面接指導・小論文指導計画を体系化し、機能的体制づくりを行う。 	A	B	
		<ul style="list-style-type: none"> ・手帳を活用し、あらゆる機会をとおして自己表現する姿勢を養わせ、学習習慣形成の一助とするよう、全校あげて取り組む。 	B		
<ul style="list-style-type: none"> ・多様な進路希望を鑑み、生徒への個別面談を強化するとともに、保護者の意識啓発についても広報や講演会等に限らず、随時、面談を実施する。 	A	A			
地域に関わられた学校づくり	1 学校の諸活動を広報し授業公開をとおして村上高校の魅力を地域に発信する 2 「首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業」(文科省)を活用し、村上探求活動を推進し、地域交流をつうじて郷土村上を愛する心を育て、地域の課題を解決し、地域活性化に貢献できる人材を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・各種広報をとおして随時情報や本校の魅力を発信するとともに、HP 等を活用するなど、本校の実態を広報する。 	A	B	A
		<ul style="list-style-type: none"> ・各 PTA 事業への参加者数を前年比 5%増となるよう取り組む。 	B		
		<ul style="list-style-type: none"> ・地区内各校と連携した中学校への授業公開を行うとともに、各種事業を活かした異校種間交流にも積極的に取り組み、地域の中心校としての本校の実情を周知する。 	B		
		<ul style="list-style-type: none"> ・オープンスクールへの参加者数を増加させるため、中学校に直接足を運んで働きかけたり、本校保護者にも周知して地域に働きかけるなどの取り組みをする。 	B		
		<ul style="list-style-type: none"> ・首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業(文科事業)を積極的に推進し、村上を「知る」地域探求活動を進め、村上の良さや課題について考察し、村上市内の小・中・高や村上市と連携した学びあい「村上学」をとおして、「地域活性化人材育成モデル」を構築する。 	A	A	
成果	進路においては、目標に掲げた数値には及ばなかったものの、成績下位者への手厚い指導等により、進路希望の実現に向け、最後まで努力する姿勢を学年全体で共有できた。外部有識者の効果的活用などによる特別支援教育、いじめ防止・早期発見への対策、生徒指導が機能し、安全安心な学校づくりに貢献した。1年間取り組んだ文部科学省事業では、事業所訪問、海外修学旅行での英語によるプレゼン、村上フォーラムの開催など様々な取組を実践することで、これからの探究学習のあり方について研究することができた。		総合評価		
			B		

